

鳥取・前田遺跡



(鳥取南部)

た。

河原町は鳥取県の南東部、

中世の集落を主体とする前田遺跡は、河川の合流する縁辺にある

- 1 所在地 鳥取県八頭郡河原町大字郷原字前田
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)一二月～一九八三年(昭58)三月
- 3 発掘機関 鳥取県・河原町教育委員会
- 4 調査担当者 中島弘隆
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 七～五世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

前田遺跡は、国鉄因美線河原駅と国英駅間の線路沿い、北流する千代川の支流三谷川の南岸、郷原部落西側の河岸段丘上に位置している。本遺跡の発掘調査は、土地改良総合整備事業上山手地区は場整備工事に伴う、表土めくり中に発見され、鳥取県埋蔵文化財センターの指導のもとに河原町教育委員会が発掘調査を実施した。

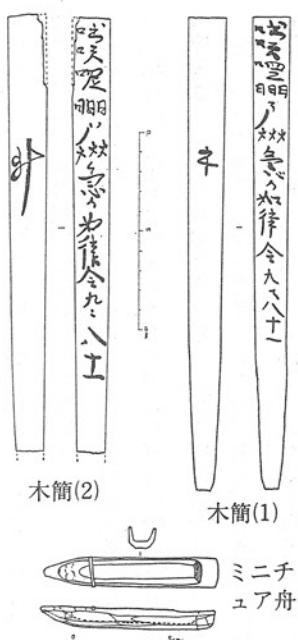
千代川、八東川、曳田川の合流する地点にあり、古くから交通の要衝として栄えた町である。本町内では丘陵や山地に古墳が多く築造されており、総数一二三基を確認している。中でも曳田の嶽古墳は全長五〇mの前方後円墳で八頭郡内では最大の規模を誇る。本遺跡の所在する三谷川流域には郷原古墳群、山手古墳群が点在している。古代律令制度下の当町域は因幡国八上郡に属していた。その当時の八上郡衙跡と考えられる万代寺遺跡は隣町郡家町大字万代寺にあり、また近くの大字土師百井には白鳳時代後期頃と考えられる国史跡、土師百井廢寺跡がある。河原町域では、この時代の遺構、遺物は検出していないが「万葉集」などに「八上采女」の名がみえ、河原町大字曳田には八上比売命を祀る、式内社売沼神社が鎮座している。中世において当町域で注目される出土遺物は、一九三二年(昭7)発掘された、大字中井の羽黒山妙玄寺跡の經塚遺構、大字八日市字滝谷出土の瓦経、大字釜口字西土居出土の銅鉢など寺院に関する文物である。經塚遺物や羽黒山の名が示す通り、この地域では修験道信仰が盛んであったと考えられる。このことは本遺跡の近くに真言宗の靈石山最勝寺・医王山大安興寺などの所在から推測されるところである。八日市、六日市、市場尻(郷原)、市場河原(片山)などの地名は、これら寺院などと共に栄えた中世の市場の名残りではなかろうか。

ことや、市場の地名が見出せることなどから、交通の要衝に位置していたことが推測される。

本遺跡から検出された遺構は掘立柱建物二八棟、柵二条、溝四条、土壙二三基、井戸二基が確認され、出土遺物については、縄文土器・弥生土器・古墳時代から奈良・平安時代の土器・中世の土器片、一〇九片が発見されたが、なかでも、備前・瀬戸・中国製陶磁器片が三五片も確認されたことからして、集落中に、中世でも卓越した「家」があつたことが推測されるのである。また、石製品・土製品が五点検出され、木製品としては、箸・漆椀・杓子が各一点と木簡二点、ミニチュアの舟が一点出土している。この木簡二点については、二基の井戸底から各々一点が出土したものであるが、特に注目される二点の木簡の字句については、奈良大学教授水野正好氏によれば「長病に臥せる人の快癒を希う」呪札—まじない札であると解説されている。またミニチュアの舟も、こうした呪術の用具として使われたものと推測されるのである。

こうした呪符を授けるのは陰陽師と呼ばれる呪者、修驗道の道に関わる聖である。始めにも述べたところであるが、この前田遺跡の周辺は修驗道信仰が盛んであった地域である。このことは本遺跡出土の呪札とも深いかかわり合いをもつものであろう。

8 木簡の釈文・内容



(小谷和章)

(1) 「咄咲哩日火日戸火急々如律令九火八十一」

・「日火」 井

」 237×18×3

(2) 「咄咲哩日火日戸火急々如律令九火八十一」

・「日火」 井

(218)×16×3

ともに材質はスギ。(2)は下端部が欠損している。

水野正好教授にご教示いただき、一符、三句からなる呪札—まじない札であることが解明されたのである。

9 関係文献

水野正好「前田遺跡発見のまじない札—その働きと用いられる場—」(『前田遺跡発掘報告書』河原町教育委員会一九八三年)